

レトロの街の映画資料館「松永文庫」オープン

門司在住の松永武さんが、64年間にわたって収集してきた映画のパンフレットなど貴重な資料を保存・展示する映画の資料館「松永文庫」が11月3日、老松公園にある門司市民会館内にオープンしました。

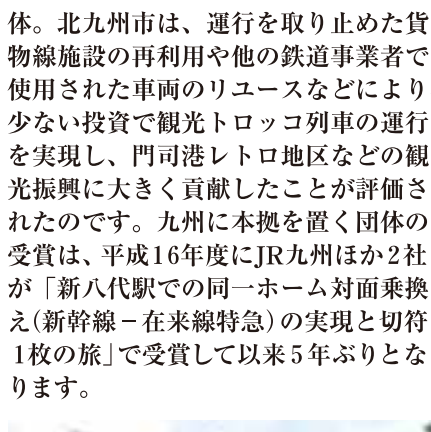
門司港で育った松永さんは、幼いころから両親と映画館へ通うのが楽しみだったと言います。当時から入場券の半券や映画館のプログラムを保管。30代からは、新聞4紙から映画の評論やインタビュー記事を切り抜き、項目ごとに整理したスクラップ帳は200冊を超えます。映画関連の図書は3000点、ポスターは1000点以上。膨大な資料はこれまで10年間、自宅を改造して開設した私設図書館で展示していました。貴重な資料が映画関係者やファンに高



▲懐かしいポスターなど12,000点を超える資料を一般に公開展示
▼新たな観光スポットに

「廃線文化観光賞」受賞 門司港トロッコ列車

「鉄道の日(10月14日)」創設の趣旨である「鉄道に関する国民の理解と関心」をさらに深めるとともに、鉄道の今後一層の発展を期することを目的として、平成14年に創設された「日本鉄道賞」において、北九州市は「廃線文化観光賞」を受賞。10月14日に東京都で開催された第16回「鉄道の日」祝賀会で表彰されました。



▲門司港駅近くから和布刈エリアまでの約2.1kmをのんびりと潮風に吹かれて走るトロッコ列車

門司港駅の新たな名所 旅立ちの鐘と幸福の泉

九州鉄道の起点として栄えてきた門司港駅。今も国の重要文化財として、市民や多くの観光客から親しまれています。大正3年、それまでの駅から海側へ約200メートル移転し、門司駅(現在の門司港駅)が開業した当時、列車の出発時に「出発の鐘」として使用され、昭和に入ると「安全の鐘」として乗客の安全を見守ってきた鐘があります。その鐘を磨き上げたものが、「旅立ちの鐘」として平成の時代にもみがえりました。鐘の下には「幸福の泉」が清らかに流れています。「旅立ちの鐘」は、結婚・進学・就職など新たな旅立ちに幸せを願



って、午前9時から午後6時までの間、だれでも自由に鳴らすことができます。旅立つ人々の夢や希望が流れ込む「幸福の泉」の脇でその実現を願い、「旅立ちの鐘」は門司港駅から旅立って行く人々をやさしく見守ります。皆さんも門司港駅で「旅立ちの鐘」を鳴らしてみませんか。

プレゼント 20名様

フレッシュセンツ(香り袋) 20名様にプレゼント!



レトロの街「門司港」から皆さんに素敵なプレゼント! ハガキにプレゼントの品名・住所・氏名・TELを明記の上、下記の宛先までお送り下さい。また、この情報紙のご感想もぜひ、お寄せ下さい。皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております。

〈宛先〉〒801-0852 北九州市門司区港町7-18(北九州市旧大阪商船2階) 門司港レトロ倶楽部 「レトロタイムズ・プレゼント係」

〈〆切日〉平成22年2月28日(日) 必着 ※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



▲石原裕次郎のサイン入り著書など訪れた人の目をひく貴重な資料がいっぱい

場所を門司市民会館内に移し、新装オープンとなりました。「映画好きの若者から一般の人まで楽しめる施設にしたい」と松永さん。今後は室長として、収集や保管などの運営を仕切り、展示や関連イベントなども企画するそうです。

●開館時間/9:30~17:00
●休館日/月曜日・年末年始
●住所/北九州市門司区老松町3-2(老松公園内・門司市民会館内)
●TEL/093-331-8013

出光商会創業の地に 記念碑を設置

出光興産は創業100周年事業の一環として、観光スポットである船だまりから100メートルほど離れた鎮西橋交差点のそばに、会社発祥の地を伝える記念碑を建設しました。記念碑は縦横約60センチのステンレス製です。記念碑には「1911(明治44年)、出光興産の前身である出光商会はこの地で石油販売業の第一歩を踏み出した」と記され、明治22年の開港から次々に企業が進出してきた門司港発展の歴史や、大正6年の活気ある初荷の写真も添えられています。門司を愛していた創業者の出光佐三氏の熱い思いと輝かしい功績が伝わってくるようです。



門司港アート村 「東京展」銀座で開催

門司港アート村の村民らが、12月8日(火)から13日(日)まで、多くの美術関係者が集う東京銀座の藤屋画廊で初の東京展を開催しました。門司港アート村では毎年、アート村で制作した作品を発表する「門司港アート村展」を行っています。地元北九州をはじめとして、開催の場は福岡、京都と広がり、アーティストたちそれぞれのファンも広がっています。今回の東京展では、3人の彫刻家(手嶋大輔氏、荒井雅美氏、松浦孝氏)と彫金(福井理絵氏)、染織(川端孝則氏)の計5人が2、3点ずつ出品。みずみずしい感性あふれる作品で門司港アート村をアピールしました。



information

出光美術館(門司)
日本美術の女神たち
●開催中～
12月20日(日)
唐三彩展
●2010年
1月3日(日)～
3月28日(日)



レトロ・イルミネーション

●12月1日(火)～2010年3月28日(日)
●門司港レトロ地区 17:00～22:00
門司港レトロ地区一帯の樹木100本を、約30万球のイルミネーションで彩ります。



カウントダウン! 門司港レトロ

●12月31日(木) 23:00～
●JRM門司港駅周辺

新しい年の始まりを、家族や友人と一緒に門司港で賑やかに迎えてみませんか。



門司港レトロかきフェア

●2010年1月1日(金)～1月31日(日)
●門司港レトロ地区周辺

かき焼き祭り

●2010年1月23日(土)・24日(日)
●レトロ中央広場 11:00～16:00

ふぐと灯りとひなまつり

●2010年2月6日(土)～3月28日(日)
●門司港レトロ地区周辺・栄町周辺
多彩なイベントが目白押し! 「ふぐと灯りとひなまつり」。旧大阪商船ビルをメイン会場にふぐの巨大神輿やひな人形の展示、甘酒振る舞いなどを開催。

門司港レトロふく祭り

●2010年2月7日(日) 11:00～
●レトロ中央広場
とらふぐのさばき実演や老舗ふく料理店の腕自慢、お楽しみ抽選会など盛り沢山!



※イベント内容については、都合により変更になる場合があります。詳しくは門司港レトロ倶楽部まで。

※お問い合わせは下記まで、お気軽にどうぞ。

門司港レトロ倶楽部

TEL093-332-0106
レトロ
ホームページアドレス
http://www.retro-mojiko.jp
メールアドレス
retro@mocha.ocn.ne.jp



心ときめく感動に出逢えるロマンチック情報紙 <レトロタイムズ>

The Retro Times

2009年・冬
vol.24
編集発行
門司港レトロ倶楽部
〒801-0852
北九州市門司区港町7-18
(北九州市旧大阪商船2F)
TEL 093-332-0106
FAX 093-332-0108

身近な港 楽しい海辺 再発見 北九州港開港120周年

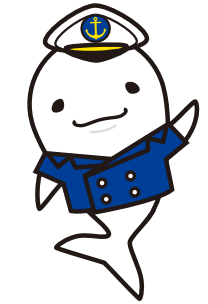


日本を代表する国際港から 観光地「門司港レトロ」へ

平成21年11月15日、開港120周年を迎えた北九州港。その始まりは、明治政府が当時の主要輸出5品目である米・麦・麦粉・石炭・硫黄の特別輸出港として門司港を指定した明治22年にさかのぼります。一帯は塩田が広がる寒村で、人口はわずか3千人でした。しかし、2年後に当時の九州鉄道の起点となる門司駅(現門司港駅)が開業すると、人口は急増。瞬く間に国内有数の港町に発展しました。もともと門司港は、関門海峡に面し、高波が少なく天然の良港で、嵐の時には避難する船でゴった返したそうです。明治29年には石炭輸出国産一に。さらに、大正5年には外国貿易で出入りする船舶が4974隻と日本一でした。そんな門司港の将来性に目をつけた金融機関や船会社が次々と進出。まちには近代的な英国風レンガ造りの商社や銀行が建ち

並びました。その後、大正10年に日本郵船の1万トン級の欧州航路船「箱根丸」が初寄航すると、これを機に門司港は欧州航路の寄港地となります。大正から昭和初期にかけて最盛期を迎えた門司港には、1ヵ月に200隻近い外国客船が入港し、国内航路を含めて年間600万人近い乗降客がいたといえます。さまざまな国から新しい物や情報が入ってくるようになり、門司港は洋装の人々が行き交う国際色豊かでハイカラな港町へと成長していったのです。かつて官庁街だった清滝周辺には接客用の料亭が数十軒も並び、200人を超す芸者がいたといえます。当時繁栄を極めた料亭のひとつが、市街地を見下ろす高台に建つ、お城のような木造3階建ての「三宜楼」でした。東京や京都など各地で遊びなれた客が多かったため、芸も料理も自

然と洗練され、清滝の料亭を中心に門司港の粋な文化が育まれていきます。その後、昭和39年に門司港は小倉港、洞海湾(若松・戸畑・八幡港)と統合され、「北九州港」が誕生しました。門司港は関門トンネルの開通後、通過点となり、以前のような活気は失われましたが、昭和63年に始まった「門司港レトロ地区」の再開発事業によって再び脚光をあびます。かつて国際貿易港として栄えた門司港には、当時の面影を偲ぼせる古い街並みが残されており、この古い街並みと新しい都市機能を調和させた都市型観光地をめざしたのが「門司港レトロ地区」です。現在では年間200万人を超える観光客が訪れる、北九州市を代表する観光スポットに成長しました。開港から120年。横浜・神戸と並ぶ国際貿易港として日本の近代化に大きな役割を果たしてきた門司港。その歴史に思いを馳せながら門司港レトロを散策し、新しい出会いと再発見の旅をお楽しみください。



▲公式キャラクター スナQ(スナキュー)

ゆったり時が流れる港町の雑貨屋さん

特集：門司港雑貨めぐり

古い港町の建物や風景を活用 門司港にアンティークな風を

世界に開かれた国際貿易港として長い歴史を持つ門司港には、現在もレトロな建物が残り、どこかエキゾチックでノスタルジックな雰囲気が漂っています。そんな門司港が今、新たな魅力で注目されていることをご存知でしょうか。

門司港レトロには毎年多くの観光客が訪れ、北九州市を代表する観光スポットとして賑わっていますが、古くから海運関係の事務所などが立ち並んでいる西海岸地区を中心に、ここ数年、アンティークや手づくりの小物などを扱う雑貨屋さんが増えているのです。そのひとつに、築70年以上という太陽興産新海運ビルが残っています。そんなビルの一室を利用して、個性豊かなオーナーたちが思い入れたっぷりの素敵なショップを展開しています。全国版の雑誌などでも特集が組まれたおかげで、遠方からわざわざ買い物物にやってくるお客さんもいるほどです。

古い港町ならではのロケーションに絶妙に溶け込んだ、小粋な雑貨屋さんたち。オーナー同士もとても仲が良く、ここだけゆったり時が流れているような不思議な感覚が味わえるのも魅力です。



平成21年9月のおさんぽマルシェ

「門司港は素晴らしいロケーションと歴史的な背景に恵まれています。こんな場所は、ほかにはあまりないと思います。門司港の財産である古いものを活用して新しいお店がどんどんできればよいと、西海岸のレトロなビルが空いているという情報発信をずっと続けてきました。」そう語るの、海峡プラザにあるアンティーク雑貨「IN THE MOOD」の代表・松永浩一さんです。実は松永さんは、「門司港レトロ おさんぽマルシェ」の仕掛け人でもあります。

「おさんぽマルシェ」とは、北九州やその近郊で活躍する、アンティーク・ロハス・オーガニックをコンセプトとする商品や作品を販売する個人、グループ、企業の展示即売イベントです。第1回目が開催されたのは平成21年5月5日。約15,000人もの来場者があり、大好評のうちに幕を閉じました。年1回開催の予定でしたが、リクエストがあまりにも多かつたため、9月に第2回目を開催。東京や神戸など遠方から訪れた人も多く、売り上げも予想以上だったとか。「目の前に関門海峡を望み、レトロな街並みを持つ門司港は、今や全国のアンティークや雑貨屋さんたちの憧れの地になっています」と松永さん。「アンティークと雑貨のまち」という、また新たな魅力が加わった門司港を、わくわくしながらゆったり散策してみませんか？



1 Arbre (アルブレ)
☎093-331-0087
北九州市門司区西海岸1-4-13
九港ビル1F
営業/木～土曜のみ
12:00～18:00

西海岸のゆったりとしたリズムが好きと言うオーナーはガーデンニング歴30年。1年ほど前にグリーンと古道具のお店を、レトロな九港ビルの1階にオープンしました。またたく間に、東京の雑誌社が取材に訪れるほど注目のお店に。古道具は主にイギリス・フランス・日本製で、なかには思わぬ掘り出し物も。グリーンと古道具のコラボが独特の癒しの空間を演出しています。



什器もアンティークなガラス棚 リースはオーナーの手づくり



2 UZU (ウス)
☎093-321-0615
北九州市門司区西海岸1-4-13
九港ビル2F
営業/土曜のみ 13:00～19:00

ほかでは扱っていないような輸入文具や、洋書、作家もののアクセサリなどが並ぶ店内は、シンプルでスタイリッシュ。見ているだけでもわくわくするような楽しさがあります。何本もほしくなってしまうようなボールペンや、1,000円からとお手ごろ価格がうれしいカラフルな万年筆、和紙でできたトートバッグ、アート関連や植物・野菜などに関する洋書は要チェック。



和紙製のバッグは軽くて丈夫 貴重な洋書目当てに訪れる人も



3 Meine (マイネ)
☎090-8623-8123
北九州市門司区西海岸1-4-16
新海運ビル306号
営業/木～土曜 11:00～16:00
http://www16.ocn.ne.jp/~leputit/index.html

手づくり好きな人が集ってくるお店にしたいと、主にドイツへアンティークな布やボタンなどを直接買い付けに行ってくるというオーナー。ドイツのヴィンテージコットンは新品のようにきれいで、丈夫なのが魅力だとか。手づくりならではの温かさと着心地のよさが人気の洋服や、こだわりのアクセサリもおすすめです。



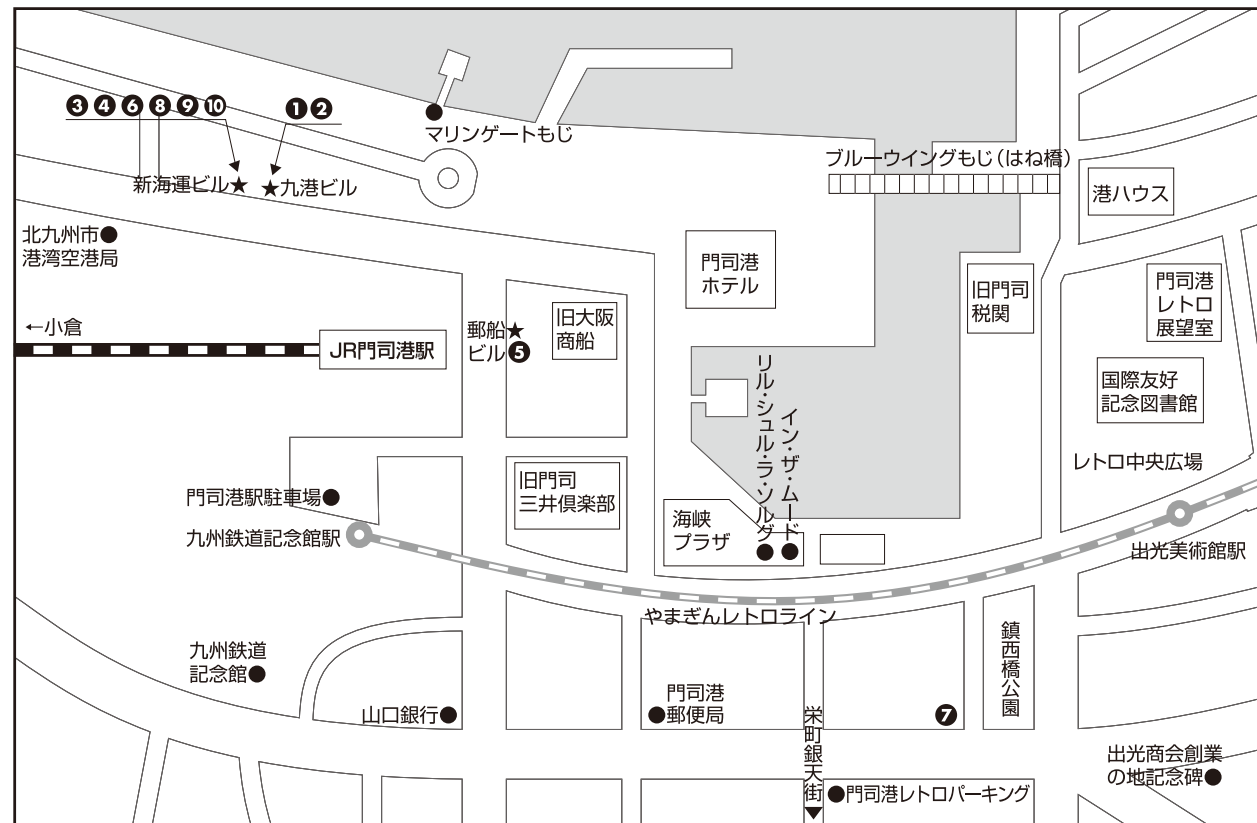
4 Charm (チャーム)
☎090-3377-5825
北九州市門司区西海岸1-4-16
新海運ビル304号
営業/木・金曜 12:00～15:30
http://homepage2.nifty.com/cbear

高校時代から個人輸入をしていたというオーナーの柔らかな空気感が漂う人気店です。ドアや什器はオーナーがデザインして、ご主人が作ったものの。フランス、イギリス、アメリカなどのアンティークレースをお目当てに、遠方から訪れるファンもいるほど。思わず手にしてみたくなるような、かわいい商品がいっぱいです。



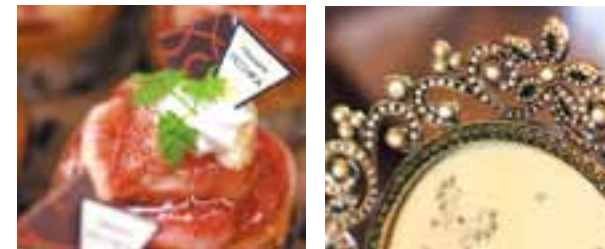
5 ARTEGEO (アルテジオ)
☎093-322-5560
北九州市門司区港町7-8
郵船ビル4F
営業/平日 9:30～17:30
土曜 9:30～16:00
http://www.acm.shop-site.jp/index.htm

「門司港アールデコ」をコンセプトとしたARTEGEOは、「アーティストが集まる“まち”門司」から全国へ発信するアートブランド。門司港アート村をはじめ地元福岡の作家たちによる磁器やアクセサリ、シルクストール、シャツ、シーグラスランプなどを販売しています。その他「門司港もだん」シリーズの手拭いなどもあります。



6 Pechka (ベチカ) & Blanc (ブラン)
☎093-332-3337 (ベチカ)
☎093-331-7783 (ブラン)
北九州市門司区西海岸1-4-16
1F (ベチカ)・2F (ブラン)
営業/12:00～19:00 (ベチカ)
12:00～18:00 (ブラン)
(オーダーストップ 17:30)
月曜・火曜休

ロールケーキとショートケーキがおいしいと評判のPechka。オーナーが一人で作って販売しているため、量は限られますが、その分いい素材を使って丁寧に作っています。作り置きはなし。朝作ったものが売り切れれば終わりです。2階にはインテリア雑貨やイスラエルジュエリーが人気のBlancが。店内にはカフェコーナーもあり、Pechkaのケーキをいただくことができます。



季節感を取り入れたケーキが並ぶ 繊細な模様が素敵なモロッコ・グラス



7 Something4 (サムシングフォー)
☎093-321-0611
北九州市門司区港町3-26
営業/木～日曜 11:00～17:00
http://blogs.yahoo.co.jp/mojiko.something4

店内にはオーナーがイギリスに直接買い付けに行ったアンティーク家具や雑貨などが並びます。状態のいい、普段使っているアンティーク家具が安く手に入るとあって、東京や北海道などからも訪れる人がいるとか。アメリカの一点もののリネン、イギリスのアンティークボトルなどの雑貨や、ビンテージ・ビーズを使った手づくりアクセサリ、アンティークなポストカードも人気。



ボトルにはグリーンを飾っても素敵 すぐに売り切れるアンティーク家具



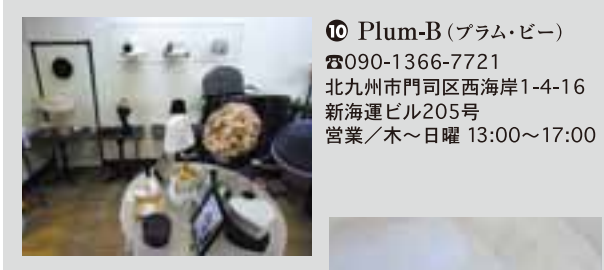
8 人々来 (ひととき)
☎090-8718-0486 (キノキ)
☎090-7587-8875 (イチネソウ)
北九州市門司区西海岸1-4-16
新海運ビル203号
営業/11:00～17:00 不定休

下関市と浜田市にそれぞれお店を持つ2人のオーナーが共同でやっているお店。西海岸というロケーションに建つ、木造3階、レトロなビルの一室に、全国の作家がつくる器や文具、雑貨など2人が選んだ品々がよく調和しています。特に、使えば使うほど味わいが出る土ものの器は、育てていく楽しみがあり、おすすめです。



9 遊牧舎 (ゆうぼくしゃ)
☎080-5293-1934
北九州市門司区西海岸1-4-16
新海運ビル204号
営業/12:00～17:00 不定休
http://yuboku.hp.infoseek.co.jp/

門司出身で現在は三重に住むオーナーが、海の見えるところにも店を出したいと、亀山店に続き門司港店をオープンしたのがこの夏のこと。手の込んだステッチ入りのシャツやバッグ、エプロン、作家もののシャツ、陶器、木の器、ワイヤーのカードホルダー、イギリスやフランスの輸入雑貨など、こだわりの品がいっぱいです。



10 Plum-B (プラム・ビー)
☎090-1366-7721
北九州市門司区西海岸1-4-16
新海運ビル205号
営業/木～日曜 13:00～17:00

小粋な帽子工房。サイズをきちんと測り、その人のいいところを引き出すデザインやカラーを考へてくれるので、帽子もオーダーがおすすめ。きれいな仕上がりのために手縫いで縫い糸を出さないようにするなど、職人気質のオーナーのこだわりが随所に感じられます。特別な日のためのウエディングハットも要チェックです。